海外の話題

シドニー雑感

農林中金オーストラリア　MD 大藤　大典

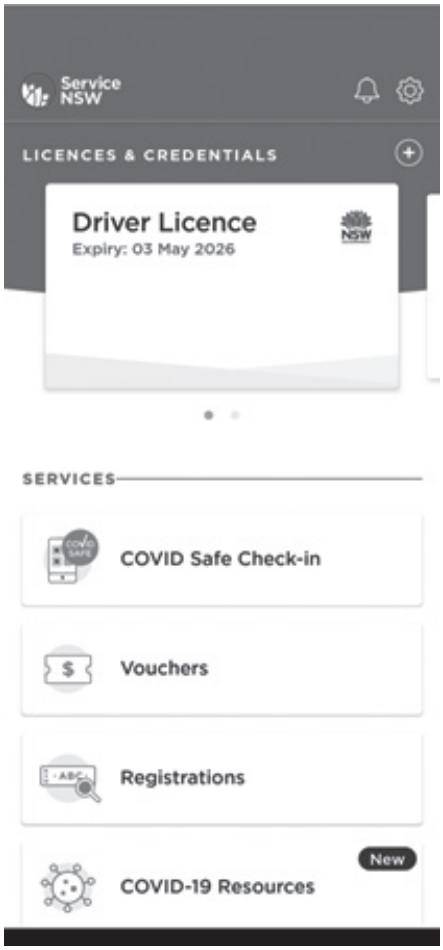
本稿執筆時点でシドニー滞在期間は２か月余りとまだ短期間ではありますが、現地で感じたことなどを記させていただきます。

まず新型コロナについて、豪州は数少ない封じ込めに成功した国となっています。世界的なパンデミックを踏まえ、昨年ロックダウンおよび強力な入国制限を実施した結果、足元の新規感染者数は全豪でゼロ～一桁となっており、シドニーを含む大部分の都市ではマスクの着用義務も無くなっています。私も３月 31 日の入国後、ホテルの部屋での 14 日間の隔離生活を過ごしましたが、看護師による毎日の体調ヒアリング、食事もドアの外に置かれリネン交換も期間中に１度だけであるなど、隔離者の体調管理および非接触を徹底して行う厳格な運営を体験しました。さらに隔離期間中の２回だけでなく隔離が終わった２日後にも PCR 受検が実質的に義務付けられるなど、隔離終了後のフォローアップも行われています。また、街なかのショッピングセンターや飲食店に入る際は NSW（ニューサウスウェールズ）州のアプリを用いたチェックイン（入館登録）が求められ、万一の際の個人の行動トレースも容易にできるようになっています。余談ですが、このアプリはチェックインだけでなく、運転免許証の更新や交通違反点数の確認、また NSW 州が発行する飲食店で使えるバウチャー（割引券）の取得なども可能であり、市民の生活に根差した機能が付与されています。部屋から出ることができない 14 日間の隔離は正直なところかなり大変でしたが、こうした徹底した水際対策と個人ベースの行動トレースを可能にする技術のおかげで、新規感染が抑制されているのだと実感しています。

休日に街中を歩いているとシドニーは公園が多いことにも気づきます。私は片道 15 分程度かけて徒歩で通勤していますが、途中に通るハイドパークについて少し触れたいと思います。1792 年に初代総督フィリップにより造成され、第５代総督マッコーリーによりロンドンのハイドパークに因んで命名された本公園は豪州最古の公園です。都市部のど真ん中にあるロケーションから 1830 年代には宅地として払い下げられかけたこともありましたが、市民の反対もあり公園としての存続が決められています。公園面積は日比谷公園とほぼ同じ、芝生と木々を縫って遊歩道があり、公園北部と南部にある花壇はシドニー市職員の管理のもと美しい景観を保っています。また園内にはジェームズ・クック像やアーチボルドの噴水、また第一次世界大戦時の犠牲者を記念する ANZAC（アンザック）記念館などの歴史的建造物が多数展示されており、また周囲にも国内のカトリックの総本山であるセントメアリ大聖堂などの建造物があり、シドニー CBD（ビジネス中心区域）の高層ビル群と対照的なスカイラインを構成しています。

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます

ハイドパークもセントメアリ大聖堂も本来は観光スポットですが、継続するコロナの状況下で海外からの観光客がおらず足元人出は限られています。豪州の観光業の GDP に占める割合は 2.5%と相応にあり、豪州全体がコロナに伴う昨年の落ち込みから急速に回復しつつあるなかでも、観光・ホスピタリティ関連セクターは依然苦境に喘いでいます。今後、グローバルにワクチン接種がさらに進み、封鎖されている国境が再度開かれ、以前のように国境を跨いだ人々の往来がまた可能になる日が来ることを祈っております。



↑ セントメアリ大聖堂（右）と CBD の高層ビル群（左遠景）

← NSW 州の携帯アプリの画面。運転免許証も表示される。

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます